

令和 7 年 1 月の解説（府県天気予報）

【1 月の天候状況】

上旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過したが、低気圧は北日本付近を通過しやすかった。また、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となった。旬降水量は、冬型の気圧配置や低気圧の影響を受けやすかったため、東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。また、低気圧の影響を受ける時期があったため、北・西日本太平洋側で多かった。期間の終わりには冬型の気圧配置が強まったため、日本海側の山沿いを中心に大雪となり、荒れた天気となった所があったほか、北・東日本では記録的な大雪となった所もあった。一方、低気圧の影響を受けにくかったため、旬降水量は、沖縄・奄美で少なかった。また、冬型の気圧配置の影響や西日本付近では高気圧に覆われた時期もあったため、旬間日照時間は、西日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。日本付近は、寒気が流入した時期と、寒気が弱まった時期があったが、旬の後半には西日本を中心に強い寒気が流れ込んだため、旬平均気温は西日本で低かった。

中旬は、低気圧と高気圧が日本付近を交互に通過した。低気圧が日本の東へ通過後は冬型の気圧配置となったが長続きせず、日本付近は高気圧に覆われた時期もあった。このため、旬間日照時間は全国的に多く、東日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多かった。東日本日本海側では、旬間日照時間平年比が 181% となり、1961 年の統計開始以降、1 月中旬として 1 位の多照となった。加えて、太平洋側を中心に低気圧の影響を受けにくかったため、旬降水量は西日本日本海側でかなり少なく、北・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。旬平均気温は、寒気の影響を受けにくかったため、北・東日本で高かった。一方、期間の中頃には低気圧の影響や冬型の気圧配置が一時的に強まったことにより、北日本日本海側を中心に大雪となり、記録的な大雪となった所もあった。また、大陸からの高気圧の張り出しに伴う寒気の影響で、旬平均気温は沖縄・奄美で低かった。

下旬は、冬型の気圧配置が長続きせず、高気圧に覆われた時期もあった。このため、旬降水量は西日本日本海側と東・西日本太平洋側でかなり少なく、北日本日本海側で少なかった。また、旬間日照時間は北・西日本日本海側と東・西日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。一方、低気圧の影響を受けた北日本太平洋側で旬間日照時間は少なかった。旬平均気温は、北日本を中心に寒気の影響が弱く、南からの暖かい空気が流れ込んだ時期もあり、北日本でかなり高く、東・西日本で高かった。特に北日本では、旬平均気温平年差が +3.1℃ となり、1946 年の統計開始以降、1 月下旬として 1 位の高温となった。

【1 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）と同じ 85% で、明後日予報は例年値より 1 ポイント低い 82% となった。地方別の適中率では

明日予報は北海道、東海、近畿、中国地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。また明後日予報は北海道、東北、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値を上回った。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1℃小さい 1.1℃で、北海道、東北地方では例年値より大きくなったが、その他の地方では例年値と同じか例年値より小さくなった。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1℃小さい 1.2℃で、全ての地方で例年値と同じか例年値より小さくなった。

(注) 例年値は、2015 年～2024 年の平均値です。

【3 月の天気予報の利用にあたって】

3 月になると、日本付近で冬型の気圧配置が続くことは少なくなり、高気圧と低気圧が交互に通過して天気が数日の周期で変わりやすくなります。また、急速に発達する低気圧によって「春の嵐」となることがあるため、突風や強風に注意が必要です。災害に備えて、各地の気象台が発表する最新の警報や注意報、早期注意情報、気象情報に留意して下さい。